

プログラム	
1日目	日本到着、京都へ移動
2日目	オリエンテーション、堀場製作所紹介
3日目	工場見学、講義：日本の経済成長と公害の歴史
4～6日目	水計測技術原理・製品説明・実験、食品安全測定方法説明と実験
7～8日目	休暇
9日目	大阪市内の工場見学
10日目	京都市内下水・上水処理場見学
11日目	水計測機器を用いた実験・研修
12～13日目	ガス計測技術原理・製品説明・実験
14～15日目	休暇
16日目	大気計測機器を用いた実験・研修
17日目	大阪市大気モニタリングセンターおよび大阪市電力発電所見学
18日目	自動車排気ガス測定実験
19日目	ゴミ焼却工場見学
20日目	研修内容まとめ、報告会
21日目	離日

③の食品安全検査プログラムでは、とうがらしと食用油の中にあるアフラトキシンの検査方法と胡瓜中にある残留農薬の測定方法等説明講義と実験を行いました。

また、弊社の大気モニタリングセンター、京都車検所、スズキ車検所、堺港発電所、東淀ゴミ焼却場、鳥羽下水処理場、牧浄水処理場、京都大学のラボ及び株式会社吉ラボ等、たくさんの方の施設を見学していただきました。

日系企業の文化と日本の文化を感じ理解していただくため、週末には関西地区の視察もしました。会社内では従業員向けの誕生日会やイベントにも足を運び、日本文化と共にも、弊社の企業文化についても理解を深めていただきました。

プログラム最終日の成果報告会では、インターシップを通して学んだことや今後について発表していただきました。来日当初期待されていたことがプログラムを通して達

本年度で5回目の実施となったミャンマーインターシッププログラムは、ミャンマー環境省より3名、マンダレー市都市開発局より1名、食品・医薬品管理FDAより3名、

ヤンゴン大学より1名、マンダレー大学より1名、自動車技術開発学校より1名の計10名が参加されました。

昨年10月28日に関西国際空港に到着し、翌29日からプログラムをスタートしました。初日はインターシップ生よりそれぞれが所属する組織・部署の紹介及び本インターシップに対する期待と今後の交流計画等を発表していただきました。様々な機関からの参加であり、期待される内容も異なるため、①環境管理②大学の研究③食品安全検査——とプログラムを大きく3つに分けて行いました。

①の環境管理プログラムでは、日本の環境汚染の歴史と対策、日本の環境規制、その環境規制遵守に必要な水質と大気分析方法について学びました。京都大学流域圏総合環境質研究センターにて、琵琶湖及びその周辺の水質管理方法や環境問題とその対策に関する講義も受講しました。

堀場製作所の活動報告



サイゴンリャン、メイサンダー、周妙鳳
(堀場製作所海外営業部)

Ⅱ 特別シリーズⅡ

科学技術
振興機構

『さくらサイエンスプラン』友情と感激

第193回



堺港発電所見学



X-Ray分析機器で重金属測定実験



京都大学の講義後の集合写真



HORIBAの従業員向けの誕生日会参加

本年6月には過去プログラム参加者の集まる機会を作り、情報交換及び今後の協力体制について協議しさらなる今後の発展に繋がることができました。また、今後も弊社との交流を継続し深いプログラムの懸け橋となることを切に願います。



アフラトキシンの検査測定実験

ミャンマー発展の一助となることを心より期待します。例えば、ミャンマーでの大気汚染防止のため中古自動車の排気測定や規制の制定など日本での経験を活かし、ミャンマー伝統産業の染色工場からの排水処理・管理の重要性を理解しよりよい環境作りができました。本年6月には過去プログラム参加者の集まる機会を作り、情報交換及び今後の協力体制について協議しさらなる今後の発展に繋がることができました。また、今後も弊社との交流を継続し深いプログラムの懸け橋となることを切に願います。

成されたと聞くことができ、嬉しく思いました。
プログラムの成果は、①日本の過去の経験を知ることで法規の必要性、顧慮するポイントを理解してもらいました。いままでも主流となっている欧米の法規に加えて日本での法規

紹介することで、アジアの風土の違いを理解していただく機会となりました。この経験を踏まえて自国の規制整備に役立てようという高い意識をもっていただくことができました。
②現場見学の体験により、環境保全は法規制を守るためだけの存在ではなく、国民一人一人の環境に対する意識を高める教育となると実感としていただいた。
③実機操作によって、設備の選定・導入時にアフターサービスの重要性を考慮し、効果的に運用するために継続したメンテナンスに必要性を理解していただきました。そのうえ、設備だけの運用以外にもデータの活用するため、人材教育も視野にいれた長期的な運用を目指していただくことができました。
④日本滞在を通して、日本の教育環境や文化に触れ合うことができ、ものづくりの精神から資源を大切することや、安心して暮らせる環境を整える個人個人の意識を体感していただき、友好関係を築きました。
また、今後の展望は、インターンシッププログラムを通して学ばれたことをミャンマーでのアクションプランに活かしていただき、